

知シもししもるル  
るもるル知シしも  
ルるルもるも知る  
るし知しルシるシ  
るシもるもしもる  
ルしも知るもル知  
もる知シもるるル  
知シもしるもシも

アートまるケット 知るもしるもシル

2022年3月から作家たちは岐阜を旅した 出会い、集めたモノ・コト

L PACK.

小田桐奨  
ODAGIRI Susumu

中嶋哲矢  
NAKAJIMA Tetsuya

plaplax

近森基  
CHIKAMORI Motoshi

寛康明  
KAKEHI Yasuaki

2023年1月17日(火) - 3月19日(日)

開館時間 | 午前10時 - 午後6時(入場は午後5時30分まで) 休館 | 月曜日 観覧料 | 無料

夜間開館日 | 1月20日[金]、2月17日[金]、3月17日[金] 午後8時まで開館(入場は午後7時30分まで)

主催 岐阜県美術館

協力 岐阜県立多治見工業高等学校専攻科、多治見市陶磁器意匠研究所、名古屋造形大学

調査協力 オークヴィレッジ株式会社、株式会社飛騨の森でクマは踊る、ぎふ木遊館、中津川市鉱物博物館、美濃歌舞伎博物館 相生座

後援 岐阜県教育委員会

 岐阜県美術館  
THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU

# 知るも 知るも シル

## 2022年3月から作家たちは岐阜を旅した 出会い、集めたモノ・コト

このたび、岐阜県美術館では第8回目となる「アートまるケット」を開催します。2015年からスタートした館長日比野克彦のディレクションによる「アートまるケット」は岐阜の言葉で「まみれる」を意味する「まるけ」と「マーケット」に「アート」を結び付け、「アートまみれ」にしようとする企画です。2015年度より3年間は展示室から庭園へ、次に美術館を飛び出し公園へ、人が自由に集まる場所で魅力を発信しました。2019年度は県内リサーチを試みるもコロナ禍のためオンライン企画へシフトし、現在も配信し続けています。

2022年度は「知る」をテーマに2組のアーティストL PACKとplaplaxを迎え、展示室と庭園を使いリアルへとリスタートするためのプロジェクトです。いまだコロナ禍の終息が見えない中、作家たちは県内各地へと赴き、自身の目で、肌で岐阜の姿にふれました。L PACKは土地にまつわる歴史、文化、民俗、また日々の生活の中で見聞きするあらゆる事象に視線をそそぎ、アート、デザイン、民芸など表現領域にとらわれることなく「風景の一部」となることを目指します。plaplaxは空間、映像、さらには当館所蔵品を組み合わせ、観客参加型=インタラクティブな作品をベースに「うつわ」という言葉・物質の多岐にわたる文化的概念を視覚化し、体感型の作品を設置します。彼らのまなざしを通して現れるハイブリッドな「岐阜のかたち」は、鑑賞者の好奇心をくすぐり、日常の中に、私たちのそばに存在する「アートの力」の意味を再考する機会となるでしょう。

## 2023年1月17日(火) - 3月19日(日)

開館時間 | 午前10時 - 午後6時(入場は午後5時30分まで) 休館 | 月曜日 観覧料 | 無料

夜間開館日 | 1月20日[金]、2月17日[金]、3月17日[金] 午後8時まで開館(入場は午後7時30分まで)

主催 岐阜県美術館 協力 岐阜県立多治見工業高等学校専攻科、多治見市陶磁器意匠研究所、名古屋造形大学  
調査協力 オークヴィレッジ株式会社、株式会社飛騨の森でクマは踊る、ぎふ木遊館、中津川市鉱物博物館、美濃歌舞伎博物館 相生座  
後援 岐阜県教育委員会

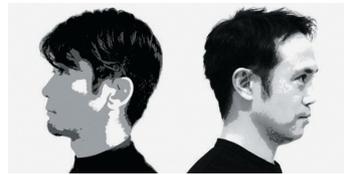
### プロフィール



Photo © 田上浩一

### L PACK.

小田 桐奨 ODAGIRI Susumu  
中嶋 哲矢 NAKAJIMA Tetsuya



### plaplax

近森基 CHIKAMORI Motoshi  
寛康明 KAKEHI Yasuaki

共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、民芸などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。2007年より活動をスタートさせ、主な活動に「萼宮美術旅館」(横浜/2010-2012)、「UCO」(アッセンブリッジ・ナゴヤ/2016他)、「新生活のスイッチ」(ATELIER MUJI/2017)、「定吉と金兵衛」(フェスティバルトーキョー/2018)。ほか、美しい生活のパートナーとなる「日用品」を扱うショップ・ギャラリー「DAILY SUPPLY SSS」(東京/2017~)を運営する。



《金華山から見る長良川》2022年



《中山道の難所》2022年

2000年頃より多分野のクリエイターとコラボレーションを開始。インタラクティブな作品をベースに、テーマやモチーフの中に潜む物語を掘り下げ、様々なメディアを使い、新しい発見や学び、ワクワクする体験の創造に取り組む。主な発表に「Ars Electronica」(アルス・エレクトロニカ・センター他/1997他)、「文化庁メディア芸術祭」(東京/1998他)、「Ombres et Lumière」(ボンビドゥー・センター/2005)、「イメージネチャー」(大垣市サイトピアセンター/2015)など、国内外で活動。また「Imaginature」をテーマにメディアアートの視点、手法で心象自然をスケッチする活動など、さらにその領域を広げている。



《イシムシの標本》2011年



《hanahana》2006年

### 会期中の催物

#### アーティストイベント

1月29日(日)  
講師:L PACK.  
L PACKと一緒に作品を楽しむイベントです。  
※詳細はウェブサイトをご確認ください。

#### パイプオルガン定期演奏会

2月12日(日) 13:30-14:30  
場所:多目的ホール 参加無料

#### みんなでまあるく鑑賞会

2月19日(日)、2月23日(木・祝) 各日14:00-15:30  
場所:展示室2、庭園 参加無料、定員12人  
みんなで観て、聞いて、触って、話して作品を様々な角度から楽しみます。  
どなたでもご参加いただけます。

#### アーティストトーク「岐阜をめぐる」

3月19日(日) 13:30-15:00  
出演:L PACK 小田桐奨・中嶋哲矢、plaplax 近森基・寛康明、館長 日比野克彦  
担当:齋藤智愛(学芸員)  
場所:多目的ホール 参加無料、定員50人  
※事前申し込みの有無、申し込み方法など詳細については当館のウェブサイトをご確認ください。

### 交通案内

- ◎公共交通機関利用の場合
- ・JR東海道本線 西岐阜駅 南口から徒歩(約15分)
- ・岐阜市コミュニティバス「東図書館・美術館」下車 西ぎふ・くるくるバス【1日7便、市橋地区循環】JR西岐阜駅南口から乗車(約5分、復路約30分)
- すまいるバス【1日9便、三里・本庄地区循環】
- ・岐阜バス(鏡島市橋線) JR岐阜駅[6番乗場]または名鉄岐阜駅前[1番乗場]から「市橋」行きに乗車(約15分)「県美術館」下車

- ◎タクシー利用の場合
- JR岐阜駅または名鉄岐阜駅前から乗車(約10分)
- ◎自家用車利用の場合
- ・名神高速道路 岐阜羽島ICから県庁方面へ北進 約10km
- ・東海北陸自動車道 岐阜各務原ICから国道21号線を西進 約10km
- ※車いすをご利用の場合は、「おもいやり駐車場」をご利用ください。【美術館北東 6台】



【ご来館のみなさまへお願い】岐阜県美術館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、安全に配慮した取り組みを行なっています。感染症拡大防止対策のため、会期および関連催物を変更・中止する場合があります。ご来館の際は当館ウェブサイトにて最新情報をご確認ください。

お問い合わせ / 岐阜県美術館  
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22 Tel. 058-271-1313 Fax 058-271-1315 <https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>

